

あ と が き

日頃から、本校の教育活動に対しまして御指導と御支援をいただいておりますことに、心からお礼を申し上げます。

さて、「令和の日本型教育」を担う教師の姿として、「環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている教師」「子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている教師」「子供の主体的な学びを支援する伴奏者としての能力も備えている教師」が、令和3年の中央教育審議会の答申で示されており、このような教師を育成するための研修等の実施が求められております。

しかし、この3年間は新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した教育活動が求められ、従来のように子供同士が向かい合って話し合ったり、グループで活動したりすることが困難な中、いかに授業改善を進め、児童に確かな学力を保障していくのか模索する日々となり、研修の在り方もコロナ以前とは変わらざるを得ない状況となりました。

こうした折、国のGIGAスクール構想により一人一台端末と高速ネットワークが整備されたことで、オンライン配信を利用した研修の可能性が広がり、全国の先生方と意見を交わしながら研修を深めることができるようになりました。

本年度は、コロナ後を見据え、GIGAスクール構想で広がった研修の可能性を生かせる形で教育研究大会を開催したいと考え、集合形式の授業公開を基本としながら、一部の教科は集合と配信のハイブリッドで公開することとしました。

また、研究主題を「新たな価値を創り出す子供を育てる教育活動の創造」と定め、自ら「問い」を見だし、その解決策を模索し遂行することを通して、探究し続けることの価値を見いだすことのできる児童の育成を目指し、探究的な学びを軸にした研究及び授業改善を推進してまいりました。

各教科・領域の特性を踏まえた授業づくりや評価の在り方、教育課程の改善に向けた取組など、まだまだ改善の余地はあろうかと思いますが、本研究大会を皮切りに、授業力向上セミナー等の本校主催の研修会と合わせて全教科・領域の授業を公開する予定です。

今後も、教育研究校、教育実習校、教育実践校としての果たすべき使命と役割を自覚し、「附属小学校の研究や実践が参考になった。」と多くの方に言っていただくことができるよう、研究の推進と実践に努めて参りますので、御支援と御協力、御批正と御指導をよろしくお願い申し上げます。

終わりに、研究の推進に当たりましては、北海道教育庁上川教育局並びに旭川市教育委員会をはじめ、関係各位に御指導と御助言をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

副校長 齊 藤 誠